

競技注意事項

北海道高等学校体育連盟
テニス専門部

1. 選手・監督について

(1) 服装

選手の服装はテニスウェアであること。トレーナー、Tシャツ、ウォームアップウェア（上下）等の着用を禁じる。テニス用のセーター、カーディガン、ベストの着用は差し支えない。ただし、天候に配慮してレフェリーが特に必要と認めた場合に限り、ウォームアップウェア（上下）の着用が許される。

(2) 校名入りマーク

選手は校名入りマークを腰の見やすい位置につけなければならない。

(3) 靴

選手の靴はテニスシューズであること。

(4) コーチング

団体戦の競技中、ゲーム終了のエンドチェンジの間に限り、選手はベンチにいる監督・選手のコーチングを受けることができる。ただし、タイブレーク中のエンドチェンジは除く。その他のいかなる場面においても、**選手は競技中に一切のコーチングを受けてはならない。**

この条項は「テニス規則 30. コーチング」に基づいて、厳格に解釈されなければならない。違反した選手（監督、コーチ、チーム）に対しては、アンパイア（主審）またはレフェリー（専門部）によってコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。すなわち、1回目は警告、2回目は失点、3回目はそのゲームを失い、4回目は失格の措置である。（コード オブ コンダクト、19）ポイントペナルティ制度に基づく。）

(5) 連続的プレー

ポイント間の時間を 25 秒と規定する。（選手は一つのインプレーが終わった瞬間から 25 秒以内に次のプレーを始めなければならない。）また、奇数ゲーム終了後のエンドチェンジの時間を 90 秒と規定する。**（この時、選手は 60 秒でベンチを離れ、次のプレーのために移動をし、90 秒以内に次のプレーを始めなければならない。）**

これらの時間を不注意で超過してしまった選手に対しては、タイムバイオレーションが適用され、ペナルティが科されることがある。すなわち、1回目は警告、2回目以降は失点等の措置である。（コード オブ コンダクト、

7）タイムバイオレーション、19）ポイントペナルティ制度に基づく。）

(6) 提訴（アンパイアへの異議の申し立てなど）

選手・監督は、試合中の事実問題に関してアンパイア（主審）が下した判定に対し、一切提訴することはできない。判定後、選手は 25 秒以内にプレーを再開しなければならない。これに従わない者にはコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。（コード オブ コンダクト、7）タイムバイオレーション、19）ポイントペナルティ制度に基づく。）

ただし、ルール解釈上の問題や、相手の監督・選手または応援観客の目に余るプレーを妨害するような応援については、レフェリー（専門部）に提訴して裁定を求めることができる。

(7) 個人戦でのベンチ及びコーチング

個人戦で、監督はベンチに入ることにはできない。また、コート外からのコーチングやそれに類する行為をしてはならない。

(8) アピール

選手・監督は、声や態度によって相手のレット・ノットアップ（2バウンド）などのアピールをしてはならない。

(9) 団体戦でのベンチ

団体戦では、監督・登録選手に限り、1コートにつき1名がベンチに入ることができる。

2. 試合について

(1) 時間厳守

試合の開始時刻やコートの変更もあるので、選手は大会本部の連絡に十分注意を払わなければならない。試合がコールされてから5分以内に所定の場所(試合コート)に現れない場合、その選手・チームは失格の検討対象となる。

(2) 試合前の練習

試合前の練習は、サーブのみ(各サイド2球ずつ)とする。

3. 審判について

(1) 敗者審判

審判は、原則として前の試合の敗者(個人戦では負けた選手本人)が行う。

試合後、敗者は同じコートで待機すること。また各校顧問の先生は、自校 SCU の RU を行う。

(2) 主審

主審のコールやカウントのアナウンスは大きな声で明瞭に行うこと。

(3) 主審の役割 (SCUに準じた方式)

- ・ ジャッジペーパーの記入。スコアのアナウンス。
- ・ ラインジャッジ以外のジャッジ(詳しくは、「北海道審判ハンドブック」参照)

(4) 審判の心構え

責任と重要性を「自覚」し、「公正」に、毅然とした「態度」を貫き、自信を持って務めること。また、いかなるコールも選手や監督からの申し立てによって翻してはならない。 (要注意)

4. 北海道高体連ローカル・ルール

(1) ボールマーク(コート上に落ちたボールの跡)の調査(確認)

いかなるサーフェスのコートにおいても、選手・監督は審判にボールマークの調査を要請することはできない。

また、審判は選手・監督の要請によってボールマークの調査を行ってはならない。

(2) レット

レットは、インプレー中に審判(主審)が競技に支障をきたすような事実があると判断して「レット」をコールした時に成立する。「レット」をコールできるのは審判(主審)のみとする。また、ファーストサーブがフォールトになりセカンドサーブを打つまでの間に、他のコートからのボールがプレーの妨げになって審判がウェイトをコールした場合、サーバーはセカンドサーブから始めなければならない。

(3) 試合中のけが

試合中のけがには「筋けいれん」も含まれる。

5. その他

(1) 選手の変更は、要項に記載されているとおり病気・怪我等の正当な理由のある場合に限り、学校長名の文書で申し出ることが出来る(突発の場合はその限りではない)。選手変更の申し出については、専門部で協議の上決定する。変更の届け出は、監督連絡会までとする。

(2) ガットマークは禁止する。

(3) 雨天の場合も会場に集合して、大会本部の指示を待つこと。

(4) スコアボードは、選手(学校)番号の若い方を左側または上部に表示すること。

(5) 団体戦のオーダー用紙は、指示された方法で正確に行い本部に提出し、本部で確認し副票を試合開始前の挨拶の時に交換する。

(6) インプレー中の声や拍手による応援は禁止する。アウトオブプレーの際の応援も節度と良識を持って行わなければならない。相手の選手や周囲の選手への配慮として、ポイント間に歌や連呼する応援を禁止する。

(7) 貴重品やラケット等の管理に十分注意すること。

(令和5年8月30日 一部改訂)